

ずいひつ No.128

2017年9月25日発行

旅してみよう「おもろい」神社仏閣 その4

愛知県の「おもろい! (大阪弁)」神社仏閣、第4回目。またもや干支にまつわる神社です。今年《酉》年。しかし、「トリ神社」は愛知県に見あらず¹、初詣は「神鶏が2羽いる」という熱田神宮へお参りしたのですが、運悪く出会えず…。ですので、今回は前倒しで、来年の干支《戌》を取り上げます。その名も、「伊奴神社」。名古屋市西区にあります。



安産・子授・厄除「伊奴神社」

伊奴神社²は、天武天皇の時代西暦673年に、この地で取れた稲を皇室に献上した際に建立された、と伝えられる式内社³です。

主祭神は、素盞鳴尊と大年神、伊奴姫神。

素盞鳴尊は天照大神の弟。大年神は素盞鳴

尊の子どもであり、お正月にお迎えする「年神様」です。伊奴姫神は、大年神の妃神で、子授けや安産のご利益があり、また《たくさんの子を産み、お産が軽い》という犬にあやかって安産祈願を行う人も多く、平日でもたくさんの参拝者にぎわいます。



庄内川の氾濫と「犬の王」

伊奴神社の由緒については、愛知の伝承⁴に、こういう話があります。

昔、今の稲生あたりは一面の田んぼで、そばを流れている庄内川がよく氾濫した。村人が困って、旅の山伏にお祈りを頼むと「竹に挟んで、川岸に立てなさい。中を見てはなりません」と、御幣をくれた。言われた通りにすると、その年は洪水にならず、豊作だった。不思議に思った村人は、中を見てしまった。御幣の中には一匹の犬の絵と「犬の王」という文字が書いてあった。すると翌年は、また洪水となった。再び立ち寄った山伏に約束を破ったことを詫言、もう一度お祈りを頼むと、山伏は「御幣を埋め、社を建て祀りなさい」といい、その通りにすると、洪水はなくなった。それが伊奴神社の始まりといわれている。

その「犬の王」の石像が、境内の一番奥、本社のすぐわきに奉納されています。境内は、犬の入場禁止ですが、「いぬみくじ」や、「犬のお守り」など、犬にまつわる可愛い授与品もいろいろあります。来年は《戌》年。伊奴神社で初詣はいかがでしょうか？ (にわか名古屋人・M)



¹ トりにちなんだ神社は、大阪府堺市大鳥大社、和歌山県田辺市鬮鶏神社、奈良県宇陀市八咫鳥神社、京都市左京区鷺森神社などなど、私の出身の関西にはたくさんあるのです…。

² 愛知県名古屋市西区稲生町2-12、閑静な住宅街の中にあります。手前には庄内用水(惣兵衛川)が流れています。

³ 『延喜式』には「尾張国山田郡伊奴神社」、「本国帳」には「従三位伊奴天神」と記載されています。

⁴ 芥子川律治『続・名古屋の伝説』、愛知県小中学校長会『あいちのむかしばなし4 とびしまの大さめ』に載っている「山伏のお札」というお話です。この2冊は名古屋市立図書館にあります。「犬の王」については伊奴神社の由緒書きにありました。